

第6学年 国語科学習指導案

日 時：平成27年10月8日（木）5校時

児 童：男子4名 女子5名 計9名

1 単元名 作品の世界を深く味わおう（光村図書 6年下）

教材名 やまなし

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、以下の学習指導要領の領域の目標と内容を具現化する学習内容である。

1 目標

(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

C 読むこと

(1) エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

イ (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つこと。

本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」と、資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」から成っている。「やまなし」は、比喩表現や擬態語などの宮沢賢治の独特な表現が使われた抽象的・幻想的な作品である。対比的に描かれている2枚の幻燈の世界は美しく、児童のイメージを豊かに膨らませ、作品の世界に浸るにはふさわしい教材である。「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の世界に深くかかわる筆者が、小学生向けに書きおろしたもので、広い知識と高い理想を持つ賢治を知り、その生き方、考え方にも触れることができる。「やまなし」から感じ取ったことと「イーハトーヴの夢」で紹介される作者の思いや考え方と重ね合わせ自分の考えを深めたり、同じ作者の作品を読み比べたりすることで、作品の世界を深く味わい、豊かな読書生活につながると考える。

(2) 児童について

児童はこれまでに、6年「カレーライス」で、文学的な文章を読む経験をしている。「カレーライス」では、登場人物に自分を重ね合わせてその言動や心情を読んだり、人物相互の関係から登場人物の心情をとらえたりする学習をしてきた。また、6年「笑うから楽しい/時計の時間と心の時間」では、自分の経験と筆者の経験を結びつけながら読み、自分の考えを持つ学習をしてきた。これらの学習を通して、叙述に即して読んだり、自分の考えを書き表したりすることに取り組んできた。しかし、アンケート調査の結果、自分の考えをまとめて書くことに苦手意識がある子や人前で話すことに抵抗のある子が半数近くいる。そこで、本単元では、一人読みに頼らずに、友達の影響もヒントにして自分の考えを深めるように指導していきたい。

読書については、好き5名、好きではない4名という結果である。朝読書のように時間を設定している時には読むが、家庭での10分間読書の様子では、毎日読む子と、あまり読まない子で個人差がある。本の有用性はわかっているが、読書はまだ好きになれないという児童も見られる。

本校児童は、宮沢賢治作品に低学年のころから親しんできており、賢治作品は8～20冊読んだことがある。この単元では、「イーハトーヴの夢」を読むことで宮沢賢治の生き方や理想を知ったり、並行読書で今まで読んだ作品を読み直す中で、賢治の作品の共通点を見つけたり独特な表現を味わったりし、同一作者の本を読む楽しさを感じることができると考える。

(3) 指導にあたって

本単元では、「自分の選んだ宮沢賢治の作品を『推薦カード』にまとめる」ことを単元のゴールとして設定する。

第1次では、自分の選んだ宮沢賢治作品を5年生に伝えるために「推薦カード」を書き、図書室に宮沢賢治コーナーを設置することを知らせた上で、教師作成の「推薦カード」を提示し、単元の見通しを持たせる。次に「イーハトーヴの夢」を読み、作者の考え方や生き方に触れる。また、その際、並行読書をしていくことも知らせ、目的意識、相手意識を明確にして学習の見通しやイメージを持たせていきたい。

第2次では、「やまなし」を読み進め、学んだことが推薦文の構成要素になるように指導していく。そのために、次の視点で読んでいく。

- ・「やまなし」の表現効果
- ・「五月」「十二月」を対比してわかること
- ・「やまなし」で賢治が伝えたかった思い

これらの視点で読んだことを交流し合い、作品のよさについて自分の考えを広げたり深めたりし、「やまなし」についての「推薦カード」を完成させる。

第3次では、2次で学んだ「推薦カード」の作成の仕方を生かし、他の宮沢賢治作品の中から推薦したい作品を選び、「推薦カード」を書いていく。

並行読書については、今まで読んだことのある宮沢賢治作品、または改めて読んだ本から、5年生に自分が一番推薦したい本を選んでおくようにする。並行読書の本は、教室にコーナーを設け、朝読書や家庭で読むようにする。

3 単元目標

◎場面の展開にそって読み、優れた叙述に着目しながら、その本を推薦するために自分の考えをまとめる。 【読・エ】

○推薦する対象となる本の内容や、書き手に関連する本を重ねて読んだり、書き手自身の事について調べたりして推薦しようとしている。 【関心・意欲・態度】

○推薦する対象となる本の内容や書き手に関連する本を重ねて読むなど、目的に応じて複数の本や文章を選んで比べて読む。 【読・カ】

○文章を特徴づける語句に気づき、語句と語句との関係を理解して読む。 【伝国(1)イ(オ)】

4 単元の評価規準

(1) 国語への関心・意欲・態度

・推薦する対象となる本の内容や、作者に関連する本を読んだり、作者の考え方や生き方を考えたりしている。

(2) 読むこと

・場面の様子をとらえて、優れた叙述に気がつき、推薦するために自分の考えをまとめている。
 ・複数の本や文章を比べて読み、作者のものの見方や考え方について考えている。

(3) 言語についての知識・理解・技能

・物語の構成について意識を持っている。
 ・比喩などの表現上の特色について意識している。

5 単元指導記録 9時間

段階	時間	学習活動(○)と支援の工夫(・)	評価
第1次 つかむ	1	○推薦カードの見本を見て、宮沢賢治作品を紹介することに関心を持ち、今後の学習の見通しを持つ。 ・宮沢賢治の生き方や考え方を関わらせながら、「やまなし」や賢治の他の作品から魅力を感じた場面を選び、5年生に作品を推薦することを確認する。 ・推薦カードの相手意識、目的意識を持つように、見本カードをもとに確認する。(見本は新見南吉の本)	【関】推薦カードの見本から、作品に込められた作者の思いを書くことがわかり、学習の計画がわかる。(発言・観察)
	2	○資料「イーハトーヴの夢」の範読を聞き、賢治の生き方や考え方について知る。 ・宮沢賢治の言葉、行動、理想を、その根拠となる叙述から考えさせ、考え方や生き方をまとめられるようにする。	
第2次 ふかめる	3	○「やまなし」の全文を読み、感想を交流し、あらすじを書きまとめる。 ・物語の舞台、登場人物、出来事、文章構成をとらえたり、賢治独特の表現がたくさんあることに気づかせたりする。	【読】【伝国】 様子を表す言葉や出来事、比喩表現や擬音語、擬態語に着目しながら、「五月」「十二月」の谷川のイメージを持っている。 (発言・ノート)
	4	○「五月」の谷川の情景を想像する。 ・会話文や出来事、比喩表現や擬音語、擬態語に着目させ、谷川のイメージを持たせる。	
	5	○「十二月」の谷川の情景を想像する。 ・会話文や出来事、比喩表現や擬音語、擬態語に着目させ、谷川のイメージを持たせる。	
	6	○「五月」と「十二月」を対比させながら「やまなし」	

	本時	<p>を読み，魅力を感じた場面を選び書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの幻灯の共通点や相違点を捉えながら，魅力を感じた場面を選び，優れた叙述を引用し紹介できるようにする。 <p>7 ○「やまなし」という題名について考え，書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の考え方や生き方を重ね合わせて，「やまなし」に込められた作者の思いを考える。 	<p>【読】自分の言葉で作者の思いをとらえることができている。</p> <p>(発言・ノート)</p>
第3次ひろめる	8	<p>○やまなしと同じ形式で，自分で選んだ賢治作品の推薦カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじ，魅力を感じた表現，作品に込められた作者の思いなどを考え，推薦カードを書く。 <p>9 ○「推薦カード」の感想を交流し合うことで，賢治作品に対する理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じ方の共通点や違いがあることに気づかせたり，推薦カードを書くことでどんな学びがあったのか意識付けたりする。 	<p>【読】「やまなし」の推薦カードの書き方を生かして，自分が選んだ本を推薦カードにまとめる。</p> <p>(カード・観察)</p> <p>【読】推薦カードを見合い，書かれていることに対して感想を述べている。(カード・観察)</p>

6 本時の指導 (6/9)

(1) ねらい

「五月」と「十二月」を対比させながら「やまなし」を読み，魅力を感じた場面を選んで書きまとめることができる。

(2) 本時の指導にあたって

本時は，「五月」と「十二月」の場面に出てくる文章表現を対比的にとらえながら，それぞれの季節のイメージをふくらませる。その後，自分が魅力的だと思う内容や描写を引用して，根拠を示しながらまとめていく。そのまとめが，推薦カードの一部になるようにする。

(3) 展開

段階	学習活動と予想される児童の反応	支援の工夫 (・) と評価 (◎)
つかむ3分	<p>1 前時の学習をふり返る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>「五月」「十二月」を比べて読み，魅力を感じた場面をまとめよう。</p>	<p>・前時まで読みとったものをもとに振り返る。</p>
ふかめる	<p>3 課題を解決する</p> <p>○かのにの会話や様子，水や光の様子，色，上から来たものから，「五月」と「十二月」を対比する。</p> <p>『似ているところ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兄弟が会話している所に父親が入って来る。 	

35分

・上から何かが落ちてくる。等

『違うところ』

五月	十二月
春 日光 暗い 深い 不気味 魚	冬 月光 静か 美しい おだやか やわらかな光
笑った 死んだ 殺され た 死んでしまった こわいよ	あわが大きいよ ぼくの 方が大きい いいにおい おいしそう
かわせみが入ってきた 黒くとがっている こわ い	やまなしが落ちてきた やまなしを追いかける
こわい 不安 死 悲し み 動きのある 【 の世界】	平和 のどか 楽しそう 生 期待 喜び 【 の世界】

○「五月」「十二月」が何を表しているのか考える。

五月	十二月
死・不安・動・明る さ	生・期待・喜び・平 和

○二つの世界から魅力を感じた場面を選び、その根拠を記述して推薦カードワークシートに書きまとめる。

5月の場面

川底でかにの兄弟が天井を見ている時に、 が飛び込んで着る所に魅力を感じた。かわせみが「コンパスのように黒くとがって」いて、魚をとっていくところが、かっこいいと思った。魚が食べられたのはこわいけれど、「ざらざらする鉄砲だまのようなもの」というところから、かわせみがとても速いスピードで飛び込んできたことがわかる。5月の世界の生物の動きのある様子が感じられる。

12月

「底の黒い三つのかげ法師が、合わせて六つ…。」の部分は、かにの親子のおもしろい動きや楽しそうな様子がわかった。やまなしをみつけたかにたちの喜びが伝わってくる。その他にも、「水はサラサラ鳴り」

・かにの会話や様子、谷川の様子（水や光の様子）、出来事（上から来たもの）に着目させて、対比させる。

◎「動と静」「こわさとおだやかさ」等のイメージを引喻している表現語句を見つけ、それらのもつ意味を考えることができる。（発言・ワークシート）

・2つの世界に「○○な世界」と自分のイメージした名前をつける。

・そのイメージを、根拠を持って説明し、ペアで交流させる。

（目的）「補強」「修正」

・2枚の幻灯を対比させながら読ませ、推薦したい場面を選ばせる。

・選んだ場面の優れた叙述を引用して紹介させる。引用部分には「」を用いることを確かめる。

・なぜ、その場面が魅力的なのか、推薦の根拠を必ず記述させるようにする。

内容（物語の展開や人物の心情）

描写や表現の工夫

◎魅力を感じた場面を、物語の内容あるいは描写の工夫について優れた叙述を引用し、その根拠を記述して書きまとめることができる。（ワーク

	「月光のにじがもかもか集まり」などの言葉で、やわらかく平和な世界が表されていると思う。 ○書きまとめた文章を紹介する。	シート)
まとめ る 7分	4 本時のふり返りをする。 ○本時の学習の感想を発表し合う。 5 次時の確認をする。	・学習内容、自分の学びの姿勢、友達からの学び等をふり返り、ノートに書かせる。(ノート・発表)

(4) 板書計画

	イメージ	出来事	かにの会話・様子	谷川の様子						
	み 動きのある	こ わい 不安 死 悲し	い 黒く とが つて いる こわ	か わ せ み が 入 っ て き た や ま な し が 落 ち て き た	こ わ い よ た 死 ん で し ま っ た あ わ が 大 き い よ ぼ く の 方 が 大 き い い い に お い し そ う	魚 笑 っ た 死 ん だ 殺 さ れ た あ わ が 大 き い よ ぼ く の 方 が 大 き い い い に お い し そ う	春 日 光 暗 い 深 い 不 気 味 魚 静 か 美 し い お だ や か や わ ら か な 光	五月	十二月	「五月」「十二月」を比べて読み、魅力を感じた場面をまとめよう。
	生 期 待 喜 び 静 か な	平 和 の ど か 楽 し そ う	や ま な し が 落 ち て き た や ま な し を 追 い か け る	あ わ が 大 き い よ ぼ く の 方 が 大 き い い い に お い し そ う	あ わ が 大 き い よ ぼ く の 方 が 大 き い い い に お い し そ う	冬 月 光 静 か 美 し い お だ や か や わ ら か な 光				